

# I. 病院の概要

2021年4月～2022年3月

# 1. 概要

## ■名称

医療生協さいたま生活協同組合 埼玉協同病院

## ■所在地

埼玉県川口市木曾呂1317 (〒333-0831)

TEL : 0570-00-4771

FAX : 048-296-7182

ホームページ : <https://kyoudou-hp.com/>

## ■開設年月日 1978年 4月 1日

## ■2021年度実績 (全体)

|             |          |
|-------------|----------|
| 外来延患者数      | 252,480人 |
| 1日平均外来患者数   | 897人     |
| 救急搬送受入れ件数   | 3,455件   |
| 新入院患者数      | 7,139人   |
| 在院患者延数      | 97,461人  |
| 平均在院日数 (一般) | 10.4日    |
| 病床稼働率 (一般)  | 63.8%    |
| 紹介患者率       | 19.6%    |
| 逆紹介患者率      | 23.6%    |

## ■標榜科

|       |             |
|-------|-------------|
| 内科    | 放射線科        |
| 循環器内科 | 麻酔科         |
| 呼吸器内科 | リハビリテーション科  |
| 消化器内科 | 病理診断科       |
| 緩和ケア科 | リウマチ科       |
| 神経内科  | 臨床検査科       |
| 小児科   | 腎臓内科        |
| 外科    | 血液内科        |
| 呼吸器外科 | 糖尿病内科       |
| 消化器外科 | 救急科         |
| 乳腺外科  | 泌尿器科 (人工透析) |
| 整形外科  | 緩和ケア外科      |
| 脳神経外科 |             |
| 産婦人科  |             |
| 泌尿器科  |             |
| 皮膚科   | ◇専門外来       |
| 眼科    | 被ばく相談外来     |
| 耳鼻咽喉科 | 禁煙外来        |
| 精神科   | 在宅医療        |

## ■病床数 399床

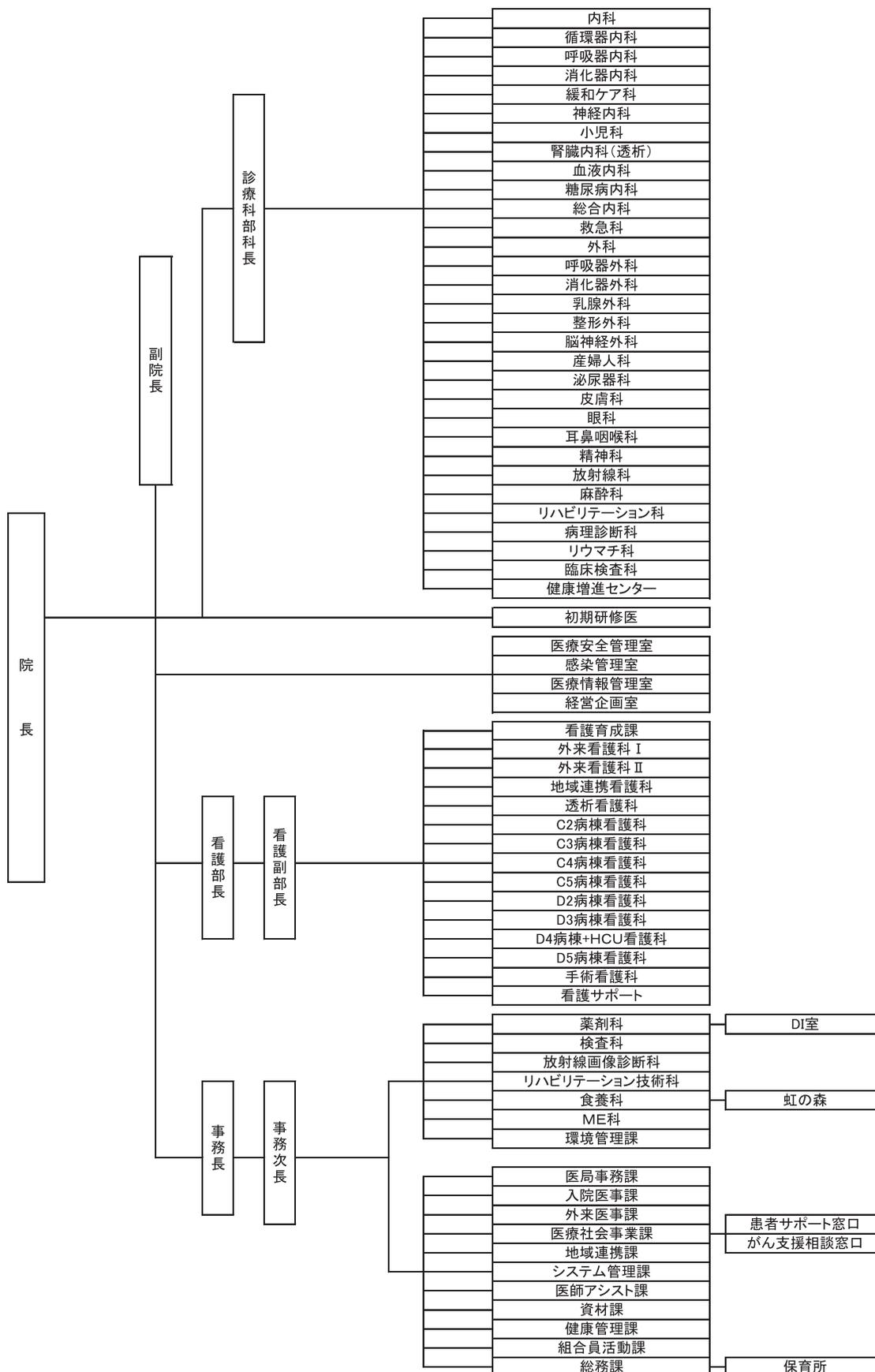
| 病棟  | 病床数 | 診療科等               |
|-----|-----|--------------------|
| C2  | 60  | 消化器内科、一般内科、耳鼻咽喉科   |
| C3  | 40  | 産婦人科               |
| C31 | 13  | 小児科                |
| C4  | 24  | (緩和ケア病棟)           |
| C5  | 50  | 呼吸器内科、泌尿器科、糖尿病内科   |
| D2  | 57  | 整形外科               |
| D3  | 55  | 外科、整形外科            |
| D4  | 46  | 循環器内科、腎臓内科、総合内科、眼科 |
| HCU | 4   |                    |
| D5  | 50  | (回復期リハビリ病棟)        |

## ■職員数 1,195名

| 職種      | 常勤・嘱託 | 非常勤 |
|---------|-------|-----|
| 医師      | 86    | 159 |
| 初期研修医   | 17    | —   |
| 看護師     | 238   | 81  |
| 助産師     | 28    | 9   |
| 保健師     | 43    | 5   |
| 准看護師    | 2     | 11  |
| 看護サポート  | 7     | 39  |
| 薬剤師     | 27    | 1   |
| 臨床検査技師  | 26    | 6   |
| 理学療法士   | 32    | —   |
| 作業療法士   | 21    | —   |
| 言語聴覚士   | 8     | —   |
| 視能訓練士   | 2     | 1   |
| 歯科衛生士   | 2     | —   |
| 診療放射線技師 | 26    | 1   |
| 臨床工学技士  | 14    | —   |
| 管理栄養士   | 13    | 5   |
| 栄養士     | 1     | —   |
| 調理師     | 12    | 4   |
| 調理員     | —     | 24  |
| 介護福祉士   | 8     | 2   |
| 事務総合職   | 82    | 133 |
| 保育士     | 4     | 10  |
| 技師・助手   | —     | 5   |
| 計       | 699   | 496 |

(2022年3月末日現在)

## 2. 組織機構図



### 3. 2021年度埼玉協同病院スコアカード

|       |   |
|-------|---|
| ミッション | 人を人として尊重し、地域包括ケア時代に輝く急性期病院になる<br>～病院のリニューアルを成功させる(準備する)～  |
| ビジョン  | ①救急医療・がん医療を軸に急性期病院としての医療機能と質を高める。<br>②総合性と専門性を備えた医療専門職が集い、育つ病院となる。<br>③ヘルスリテラシーを高める活動とともに、健康の社会的決定要因(SDH)の視点を日常診療にいかした生活支援を行う。<br>④4つのセンターを中心に、各医療チームの活動が発展する組織運営を行う。 |

|                    | 戦略目標  | 2021年度重要成功要因  | 評価指標  | 評価指標で見るもの  | 2021年度目標値  |
|--------------------|---|---|---|--|--|
| 強い医療生協を作る視点<br>(F) | 本院リニューアル・第2病院建設を成功させるために、黒字経営を進めます。           | 予算を達成し、剰余を確保する。<br>リニューアルに必要な資金を生み出す。                 | 当期剰余(累計表記)<br>DPC(Ⅱ)までの退院患者割合<br>一般病棟の回転率<br>がん診療のための地域からの紹介数<br>がんの手術数<br>増資件数   | 必要資金を確認する指標<br>病床の効率的活用を見る指標<br>病床の効率的活用を見る指標<br>がん診療指定病院の機能<br>がん診療指定病院の機能<br>基礎資本の確保を見る指標  | 累計386,737千円<br>75.00%<br>3.1回転<br>がん診療委員会で設定<br>がん診療委員会で設定<br>3,775人                               |
| 利用者の要望の視点<br>(C)   | コロナ禍の中で変化する組合員活動、患者支援について新たな方法を模索し、つながりを広げます。 | 組合員、患者の医療参画を促進し、ヘルスリテラシーを高める活動を行います。                  | オンラインで実施した班会・健康講座数<br>職員と地域組合員との対話数<br>健康情報の発信数<br>病院から提供される情報のレビュー数<br>かかりつけ患者の救急車不応需件数  | 新しい組合員活動を見る指標<br>組合員と関わる活動を見る指標<br>患者の知りたいに答える指標<br>当院の情報が活用状況を見る指標<br>患者・組合員の期待に応える指標   | 四半期で設定<br>四半期で設定<br>四半期で設定<br>四半期で設定<br>四半期で設定   |
| 確かな仕事づくりの視点<br>(P) | 医師の参画と役割を發揮して、チーム医療を活性化し、医療サービスの質を上げる。        | 引き続き新型コロナウイルス感染症に適切に対応しつつ、2病院化に向け、多職種力を寄せ合い、業務を効率化する。 | 内科疾患の標準治療パスの導入数<br>紹介率・逆紹介率<br>診療待ち時間の減少<br>検査・入院説明に関連する動画、パンフレット数<br>システム(RPA)等を活用した業務改善数<br>抑制割合<br>6剤以上の多剤処方患者割合<br>3日以上絶食者<br>MRに参加した医師の出席人数(管理医師を除く)<br>会議時間の減少<br>紙使用量の削減 | 医療の標準化<br>地域連携の力を見る指標<br>効率的な業務改善の指標<br>効率的な業務改善の指標<br>効率的な業務改善の指標<br>安心した療養環境に関わる指標<br>安心した療養環境に関わる指標<br>安心した療養環境に関わる指標<br>医師の参画を見る指標<br>効率的な会議運営の指標<br>効率的な会議運営の指標 | 4<br>40%/30%<br>2時間以内<br>四半期で設定<br>四半期で設定<br>7.8%以下<br>52%以下<br>13%以下<br>診療科から1名<br>1時間以内<br>20枚以下 |
| 育ちあいの視点<br>(E)     | 病院理念、役割を理解し、遂行できる職員を育てる。                      | 地域(患者・組合員)の“困った”を受け止め、最善の力を發揮できる職員集団を育てる。             | 病院理念を実感できる活動への参加人数<br>職員満足度の向上<br>SDHの視点を活用したカンファレンス数<br>教育プログラムの交流、他職種への期待<br>医師の当直明けの実施率  | 病院理念が体験できる活動の指標<br>職員がやめない組織に関連する指標<br>患者の困ったに対応できる指標<br>専門職能としての力を見る指標<br>医師の働き方改革を見る指標   | 常勤の半数<br>80%以上<br>年4回以上<br>医局事務で設定   |
| 社会貢献の視点            | 災害対策  | 頻発する自然災害や引き続き新興感染症に対して適切に対応する。                        | 緊急対応訓練の参加人数<br>BCPの見直しと活用した訓練   |  |  |

## 4. 埼玉協同病院 活動報告

### 1. 新型コロナウイルス感染症の拡大に対する取り組み

#### (1) 感染対策と感染患者への対応

埼玉県（川口市）では4月20日から「まん延防止等重点措置」が繰り返し延長され、ついには8月2日から9月30日まで「緊急事態宣言」が再々延長されました。連休明けの8月10日に急患の来院が急増し、発熱外来のトリアージエリアは大変な混雑となったため、8月11日よりレストラン虹の森を休業し待合エリアとして活用しました。こうした事態から各種報道機関からの医療現場への取材依頼が相次ぎました。8月19日には、NHKの「首都圏ネットワーク」から取材を受け、翌日に救急・総合内科守谷能和科長(当時)のコメントが放映されました。

「デルタ株」による肺炎症状の悪化により7月末から感染患者受入病棟はほぼ満床（12床）が続き、ほとんどが酸素療法の必要な中等症で、重症化し転院を依頼する状況もありました。埼玉県からの要請を受けて8月25日から「感染者急増時体制」となる15床の即応病床を確保して対応しましたが、何度も病床数を上回る入院患者を受け入れました。この頃には、重症化予防のための抗体カクテル療法が実施されるようになっていました。期初は「9月末まで」としていた即応病床は年度末まで延長し、11月にはフェーズⅡ体制（5床）となり入院患者がない頃もありましたが、その後の「オミクロン株」による第6波の到来で1月13日に即応病床を「感染者急増時体制」に再び拡大（15床）しています。

9月27日より営業を再開したレストラン虹の森も、1月11日からを再度休業させていただくことになりましたが、3月23日からは、休日明けの発熱患者が多く来院する月曜を除いて再開することができました。

一般病棟においては、1月に職員の感染、濃厚接触者が判明し入院制限を実施したり、3月に入院中の患者に陽性が判明し入院制限を実施しましたが、クラスターに拡大することはありませんでした。しかし、病院職員の中には、家族の感染から濃厚接触や感染し就労制限となる職員が続きました。

一方で、外来では、感染対策の知見を踏まえて、各受付等に設置していたビニールパーテーションを外し、マスクとフェイスシールドを装着しての患者対応としました。

昨年度に引き続き、管理部と感染対策委員会の中心メ

ンバーに本部担当役員も加わる感染対策会議を毎週2回、朝会前に開催し、情報共有と対策を検討してきました。また、関係部門と対策の中心となる複数医師が集まる拡大対策会議は月2回開催してきました。ほぼ月に1回の頻度で、全職員向けに管理会議（対策会議）から「対応方針」を配信し（2021年5月24日第14号～2022年3月17日第27号）、病院内外の感染状況の情報共有と病院としての取り組み方針を周知しつつ、感染制御のための注意喚起を呼びかけてきました。

#### (2) ワクチン接種の取り組み

ワクチンを保管するディープフリーザー（超低温冷凍庫）を設置して、2021年3月から当院の職員を皮切りに始まったワクチン接種は、4月22日から地域の開業医、薬局、訪問看護ステーションに勤務する医療従事者の優先接種が始まりました。当初、埼玉協同病院は医療従事者の優先接種のみが役割とされており、患者・地域の皆さんのワクチン接種をしないことになっていましたが、川口市から接種拡大の強い要請を受けて、急遽、6月8日から65才以上の高齢者、続いて9月4日から一般市民のワクチン接種へと拡大して対応してきました。V-SYS（ワクチン接種円滑化システム）という国の新しい登録システムや川口市のホームページからのインターネットによる予約等、ワクチン接種の煩雑な手続きをこなしながら、定例会議なども停止してふれあい会館を会場にワクチン接種に取り組みました。感染予防策も考慮しつつ待機室を分けて、流れも事前にシミュレーションを繰り返して準備をしてきました。その結果、最大で一日778人の規模まで滞りなく接種できるようになりました。最終的に医療従事者も合わせて、1万6,475回の接種をすることができました。

予約システムに書き込まれた「ロコミ」では、「コロナ禍でも、ソーシャルディスタンスがしっかりしていて、対応も丁寧だった。また、室内も除菌や清掃が行き届いていて、過ごしやすかった」「受付案内や接種後の経過観察まで、全ての行程にて非常にスムーズに対応頂きました」「ワクチン接種に行きました。結構な人数が並んでいましたが、とてもスムーズに誘導していただき、看護師さんたちの優しい対応に癒されました」など嬉しいコメントが寄せられました。一方で、川口市内で行われているワクチン接種に関する問い合わせの電話が、埼玉

協同病院にも多数寄せられました。半日で100件を超える日もあり、つながらないとお叱りもありました。

7月8日からは、新たに優先接種の対象となったみぬま福祉会が運営する障害者支援施設「はれ」の入所者等利用者と施設職員のワクチン接種にも、3回目接種まで訪問で行いました。12月14日からは医療従事者対象の3回目接種を、3月13日と21日には一般接種約800名の接種を実施しました。

(3) 今年度も、医療機関向けにメッセージを寄せてくださった小中学校と川口市のこだまプロジェクト「こだまのように届け！つなげよう感謝！」に、当院職員からの感謝のメッセージ・ポスターをお届けしました。市立領家中学校の校長先生からお礼状をいただきました。

## 2. コロナ禍で広がる「格差」と生活困難への取り組み

### (1) フードパントリーの取り組み

今年度も、第4土曜日に定例となったフードパントリーを老人保健施設みぬまのスタッフや多くのボランティアとともに実施しました。毎回、40～60世帯(100～220人分)の方々に食材をお渡ししました。新規利用者に若い方が多く、コロナで仕事を失い生活が成り立たない方が増えています。寄せられた医療相談・生活相談の中には、受診したいが無保険の方、介護保険の手続きをしていない方がおられ支援につなげました。外国人の方は全員がワクチン未接種でした。接種券はあっても接種方法がわからなかったそうです。「参加者の子どもの靴に穴があいていたのが気になった」との報告もありました。中には、「就職できたので、ボランティアとして参加しました」という方もおられました。食材は、農家やフードバンク埼玉、埼玉合唱団、コープみらい、クルドを知る会、ロータリークラブ、アスポーツ学習支援といった団体や企業等から多数寄せられました。また、日用品や子ども用品も寄せられ、たいへん喜ばれました。ご協力ありがとうございます。

### (2) 駅前相談会などへの参加

川口駅前広場で行われた外国人向けの「医療相談会」や「かわぐち困りごと相談会」には、他団体の方々と共に、食材提供や相談活動に取り組みました。参加した助産師からは「コロナの影響で、問題がより複雑になっている方がたくさん居られ、そうした現状を身をもって知ることができた。様々な社会背景のある患者さんも多いため、地域につなげていく関わりをしていけたら」と感

想を寄せていました。

### (3) 困難の背景を知る学習会

非正規滞在の外国人の健康診断や医療費支援の活動を25年続けている北関東医療相談会(アミーゴス)事務局長の長澤正隆さんを講師に迎え、「非正規滞在外国人を巡る問題について」学習会(10/29)をオンラインで開催し全県から41名が参加しました。

職員向けの憲法カフェを開催(11/24)し、教育格差が貧困の連鎖に大きく影響している事を学び、グループワークでの事例検討で人権について話し合いました。

2回目の「非正規滞在外国人を巡る問題について」の学習会(1/21)もオンラインで行われ、講師に難民支援協会の鶴本由美子さんをお迎えしました。全体で48名の参加でしたが、法人外の医療機関からも社会福祉士の方が9名参加されました。

1月28日には、倫理委員会主催で、「自己責任社会と財政・社会保障政策—支え合う社会へ向けて—」と題して、埼玉大学人文社会科学部准教授の高端正幸先生を講師に迎えて、学習会を開催し43名が参加しました。「財政再建」のために、社会保障の切り下げが当然のようにすすめられていますが、誰も取り残さない支え合いの社会実現のための展望はどのように描いたら良いのか、学び・考える機会となりました。

## 3. 埼玉協同病院のリニューアル建設と新病院建設

### (1) 建設委員会総会

今年度は、コロナウイルス感染症の拡大の間隙を縫って、医療生協組合員と職員が参加する建設委員会総会を4回開催しました

第6回総会(4/28、73名)では、基本コンセプトである「域包括ケアに輝く病院とは？」について、あらためて学習をしました。第7回総会(7/8、79名)では「内装デザイン」について、テーマは「みんなのすみか(巣)」とし、つつみこむような優しい空間という提案を受け、グループディスカッションを行いました。台風により延期した第8回総会(10/23、43名)では、建設計画の進捗状況と今後のスケジュール・院内表示(サイン)について説明を受け、意見交換をしました。第9回総会(12/25、60名)は、案内表示やサインの修正案の確認に続いて、外構計画ときょうどうプラザ(中央緑地帯)の活用方法や植栽・デザインの提案がされ意見交換をしました。

## (2) 各種リニューアル計画の進捗状況

8月31日、リニューアル後の待合室の患者向け番号表示や案内モニターのメーカー3社によるプレゼンテーションを行いました。

11月4日、新しい病院に設置する家具・什器のメーカー3社によるプレゼンテーションを行いました。組合員も参加する選考メンバーによる選考結果を踏まえて現場のヒアリングを行い発注先を検討しました。

11月15日に、手術支援システムのメーカーによるプレゼンテーションが行われました。1年後の電子カルテの新規更新に向けて、部門システムとして整備を図ります。手術室の業務を効率化したり、電子カルテと連携させてチーム医療をさらに推進させる事ができます。

11月30日には、次期健診システムのメーカーによるプレゼンテーションを行いました。新しい病院の建設に伴い健診エリアは約1.5倍の広さとなり、収容人員が1.5倍となる予定です。健診のシステムをグレードアップすることで、これまで手作業が多かった業務を飛躍的に合理化する事ができます。スマホから受診予約ができたり、健診結果のデータをインターネットで受け取ることができるようになる予定です。

エネルギー棟の2階に、新しい病棟の4床室と個室のモデルルームが仮設され、2月1日から見学会を始めました。部屋の広さや照明の工夫、看護師の意見を活かして竹中工務店と開発した洗面台や個人防護具等の収納棚など、実物で確認する事ができ、よりよい器具を選択するために投票を実施しました。

## (3) 建設の進捗に合わせた院内外への説明と意見交換

4月30日に職種横断の合同主任会議を開催しました。2020年度の取り組みをあらためて共有し、2021年度の病院目標・予算を確認すること、新型コロナウイルス感染症への対応に取り組んできた状況を共有し感染防御への意思統一を新たにすること、リニューアル建設工事の基本設計の到達点を理解すること等を目的に、初めて開催しました。

7月14日に、全職種合同の拡大主任・副主任会議を開催しました。埼玉協同病院のリニューアルのコンセプトの背景を学ぶとともに、今回の建設計画の特徴でもある「スタッフコアラウンジ」について意見交換を行いました。

7月26日の第1回病院マネジメントレビュー（合同役職者会議）は、Web形式で4会場に75名が参加して、密にならない工夫をしながら久しぶりにグループワークを行いました。新しい病院建設に向けた各部門の育成に関する取り組みや課題を共有することが出来ました。

9月9日から建設「アピール企画」の一環として、総合受付前の「健康らいぶらり」の一角を使い、リニューアルと新病院のイメージパース画の展示を始めました。あわせて、建設をお知らせするチラシを作成し配布しました。

10月から3月にかけて川口市内、さいたま市、東部地区の16の医療生協組合員支部で建設学習会を開催しました。あらためて病院のリニューアルと新しい病院建設の必要性や、めざしている「地域包括ケア時代に輝く病院」とはどのような機能や姿なのか、についてイメージ画なども活用して紹介しました。11月1日には、地元の神根連合町会の町会長会議でリニューアル建設のご紹介とご挨拶をさせていただきました。

10月30日の第2回マネジメントレビュー（合同役職者会議）には、84名が参加しました。今回は医師が参加しやすいようにと土曜日の午後に開催し、9名の医師が9つの分散会に参加して、病院リニューアル後にむけて各診療部門の医療構想について意見交換をしました。

12月2日に、昨年は中止した地域医療懇談会をオンラインで開催しました。全体としては100名くらいの方にご観覧いただけたかと思います。冒頭、増田院長より病院建設について改めてご報告しました。「どんな病院ができるのか楽しみにしています」といった声もいただきました。講演では、後藤慶太郎救急科部長のERの紹介と畔柳綾麻酔科部長によるペインクリニックの紹介が好評でした。

12月4日には、約600名の方が参加し「建設まつり2021」を開催しました。メインステージでは健康体操や川口北高等学校の吹奏楽部・音楽部の生徒さんの演奏、手術看護科によるダンス等が賑やかに行われました。会場には職業体験コーナーや車いす体験コーナー、救急車展示コーナー、なんでも相談コーナーのテントが並び、ふれあい会館では医療従事者なりきり写真撮影パネルやハーバリウム体験コーナーなどが盛況でした。新しい病院の建設予定地では建物の説明や竹中工務店のご協力によるショベルカーやクレーン車の乗車体験ができました。

12月18日に、リニューアル建設と新病院建設の本格着工を前にして起工式を執り行い、12月22日にいよいよ着工となりました。

## 4. 職員育成の取り組み

### (1) 医師研修と第三者評価の受審

6月19日に、埼玉協同病院で取得できる医師の後期研修プログラムに関する説明会を開催しました。当院で初期研修中の研修医をはじめ、つながりのある医学生もオ

ンラインで参加しました。報告したプログラムは、基幹型となっている内科・総合診療・麻酔科、連携型となっている外科・小児科・産婦人科・整形外科の各科でした。

8月7日と21日は、2022年度の初期研修医の採用試験でした。定数8名に対して、今年の実験生は48名と過去最高の受験生数となりました。

10月13日に、1月に行われる卒後臨床研修評価機構による医師の初期研修病院の研修プログラムを中心とした第三者評価にむけて、本番さながらに、外部サバイバー(審査員)にお越し頂きました。

11月26日に、片山充哉先生(国立病院機構東京医療センター総合内科)を迎えて初期研修医15名が参加して、「救急でみる呼吸器疾患」というテーマで、実際の症例3例をとりあげて、カンファレンス形式で学びました。

1月19日に、卒後臨床研修評価機構(JCEP)の病院訪問による認証資格の更新審査を受審しました。この認証資格は「国民に対する医療の質の改善と向上をめざすため、臨床研修病院における研修プログラムの評価や人材育成等を行い、公益の増進に寄与する」目的で行われています。審査後の講評では、いくつかの改善が必要な指摘もありましたが、「看護師、社会福祉士等の多職種役割が大きく、研修医が社会的問題とともに考えることができている」などの高い評価をいただくことができました。

## (2) 将来の医療人を育て、職員採用と育成の取り組み

4月1日法人全体の新入職員の入職式を催し、引き続き2日間の入職時研修を行いました。今回は、感染対策の学習などプログラムを見直しました。埼玉協同病院には4月5日から昨年度を上回る68名の新入職員(初期研修医師8名、薬剤師2名、保健師5名、助産師4名、看護師30名、診療放射線技師2名、臨床検査技師3名、臨床工学技士2名、理学療法士1名、作業療法士2名、言語聴覚士1名、管理栄養士2名、調理師1名、社会福祉士1名、精神保健福祉士1名、事務総合職4名)が配属になりました。また、既卒の医師3名(救急科1名、小児科1名、緩和ケア内科1名)を迎えました。

8月4日に看護職を目指している中高生に向けて、初めてオンラインでの看護体験を行いました。中学3年生から高校3年生までの5名が参加しました。事前にユニホームを郵送し、当日全員が着用して参加してくれたことで、微笑ましい姿をみることができました。オンラインでしたが、「手浴」を自宅で行う設定で、看護として行う「手浴」の意味と手順をスライドで説明した後、進行に合わせて意味付けを行いました。和やかな雰囲気

取り組みました。

10月26日に、看護師、助産師、保健師、作業療法士、臨床検査技師、介護福祉士が、浦和学院高校への出前授業を行いました。参加者は保健医療クラスの2年生31名でした。前半は、各職種から10分ずつ、仕事の内容を紹介し、後半は各職種から体験コーナーを実践しました。

10月28日-29日に、看護協会主催の「再就職支援講習会」を当院主管で開催しました。参加は2名でした。1日目は「医療・看護の動向と看護職の役割」のお話を聞き、バイタルサイン(看護協会からの指定)・標準予防策・吸引について慢性呼吸器看護認定看護師から講義と実技を行いました。2日目は薬剤師から薬剤管理について、また採血の講義と実技、現場から語る「今の看護」としてブランクの後、入職して働き続けている2名の看護師と交流を行いました。多くの病院・施設で中止される中で、開催できたことに感謝されました。

11月に2回に分かれて、埼玉協同病院に途中で入職した職員向けの研修会を開催しました。参加者は、医師6名、看護職9名、技術職4名、事務12名の計31名でした。増田院長からの話、感染防止対策、医療安全講習を受講し、グループワークで交流しました。

12月25日と27日に、看護職志望の学生向けにリモートでインターンシップに取り組みました。25日は、埼玉県立大学(助産師希望)、西武文理大学(保健師希望)の2名が参加しました。病棟の看護について動画で看護現場の様子を伝えながら対話しました。

## 5. 救急救命訓練

6、9、12、3月に日本救急医学会認定ICLS(Immediate Cardiac Life Support)講習会を開催しました。4回で、医師2名、薬剤師2名、保健師5名、看護師11名、臨床検査技士2名、臨床工学技士1名、理学療法士1名の計24名が参加しました。AEDの使用、気道確保・気道管理、モニター・除細動器等をシミュレーターを使い実体験を通して学びました。コロナ禍の対応としてフル装備での実施を試みました。毎回、インストラクター含め約10名のスタッフで運営しました。また、救急診療委員会主催の職員向けBLS(1次救命処置)学習会(2回)、日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会(JMECC)を開催しました。

6月と10月、川口北高校に勤務する教職員向けの救急救命講習会が行われ、埼玉協同病院から医師3名、看護師3名などスタッフ8名が高校に向いて講習を行いました。参加した教職員は2回で約60名でした。昨年度はコロナ禍により中止としたため、今回は2年ぶりの開催と

なりました。救急蘇生法の実習終えた後に、「熱中症の対応」の講義とエビペンの使用についてデモ機材を利用して指導を受けました。

## 6. その他の特徴的な取り組み

8月と10月に、HPH推進委員会主催で、SDHカンファレンスを行いました。SDH(Social Determinants of Health)とは、「健康の社会的決定要因」と訳されます。健康を阻害する要因を分析し、健康格差や貧困、社会的不利益に影響を受ける人々の問題を解決するアプローチを検討するものです。それぞれ約30名が参加しました。今回は病棟での症例から、社会的に孤立していた方の術後管理などに社会資源を活用してどう支援していくかを多職種で検討しました。また、多職種で検討する事で、もともと自立していた方が急性疾患で著しく自立度が低下した状態となったことに対して、家族を含めてよりよい支援への気づきが多くあったようです。

9月4日、労働安全衛生委員会の主催で職員向けの「働く人のためのメンタルヘルス“ヘルスケア”研修会」を開催しました。講師に日本産業カウンセラー協会の林久美子さんを迎え、14名(看護職員7名、保育士1名、管理栄養士1名、介護福祉士1名、事務3名、社会福祉士1名)が参加しました。ストレスと体調の関係、ストレスが招く病気と対処法、身近な人の心の不調に耳をすまそう、ストレスを元気に変える秘訣等をテーマに講義を聞き、ストレスの解消法を身につけるための演習を行いました。

9月17日の『世界患者安全の日』にあわせて、毎年恒例の「医療安全月間」に取り組みました。今回のテーマは「検査の結果を聞きましょう！」でした。また、11月も1ヶ月間「患者参加で取り組む医療安全」として医療安全月間に取り組みました。テーマは「患者誤認事故防止」として、患者様自身に積極的に名前と生年月日を言ってもらうことを呼びかけました。

10月26日、倫理委員会主催で「性の多様性」学習会が開催され、病院職員37名とオンラインなどで他の事業所からも20名が参加しました。「初めてLGBTQについての話を聞いた」という感想も多く、気づきの多い学習会になりました。

11月21日に、BSデジタル放送6チャンネル(BS-TBS)で、当院整形外科の仁平高太郎主任部長と桑沢綾乃部長が「ひざの痛み 解決スペシャル!」と題した番組に出演しました。当院で取り組まれている再生医療について解説しました。

12月1日に、ウエルシア薬局北原台店のウエルカフェ

で健康相談とミニ講座を初めて開催しました。その後、毎月第1水曜日に定例開催となりました。保健師2名が地域活動として前半に健康診断についてのお話をした後、後半はハンドマッサージを組合員活動推進員さんが実演しました。

2月18日に、第4回となる病院の医療活動交流集会を開催しました。当日は129名が参加して、3会場5分散会で56演題が報告されました。1年間に各委員会、チーム、部門で取り組まれた活動を共有するとともに、次年度の医療活動や個人目標のヒントを得る学びがありました。

2月にウクライナにロシア軍が侵略戦争を始め、子どもや民間人にも多数の犠牲者がでています。戦争の背景や問題を正しく学ぼうと、3月23日には埼玉県平和委員会の二橋元長代表理事を講師に迎え、SHJ推進委員会で「ロシアのウクライナ侵攻と憲法9条」と題した学習会を開催しました。参加者からは、「ロシアのウクライナへの軍事侵攻への背景をつかむ事ができた」「いかなる理由があっても戦争を許してはいけないこと、今後さらなる危機が訪れないように、今、私たちが声を上げることの重要性に気づくことができた」との感想が寄せられています。

戦争反対アピールや学習、ウクライナへの支援金などに各職場から取り組んでいます。

## 5. 主要行事

### ■2021年

#### < 4月 >

|     |                      |
|-----|----------------------|
| 1日  | 法人 新入職員入職式           |
| 5日  | 埼玉協同病院 新入職員オリエンテーション |
| 18日 | 川口医療相談会              |
| 24日 | フードパントリー             |
| 30日 | 全職種合同主任会議            |

#### < 5月 >

|     |             |
|-----|-------------|
| 9日  | かわぐち困りごと相談会 |
| 29日 | フードパントリー    |

#### < 6月 >

|     |                     |
|-----|---------------------|
| 12日 | 日本救急医学会認定 ICLS 講習会  |
| 19日 | 後期研修プログラム説明会        |
| 29日 | 川口北高校教職員向け 救急法講習会開催 |

#### < 7月 >

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 7日  | 看護副主任研修会           |
| 8日  | 建設委員会総会            |
| 14日 | 第1回全職種合同拡大主任・副主任会議 |
| 25日 | 埼玉県原爆死没者慰霊式        |
| 26日 | 第1回病院マネジメントレビュー    |
| 31日 | フードパントリー           |

#### < 8月 >

|     |                     |
|-----|---------------------|
| 6日  | 原水爆禁止世界大会 オンライン視聴参加 |
| 16日 | SDH カンファレンス         |
| 28日 | フードパントリー            |

#### < 9月 >

|     |                                   |
|-----|-----------------------------------|
| 4日  | 働く人のためのメンタルヘルス「ヘルスケア」研修会(労安委員会主催) |
| 5日  | 休日当番医                             |
| 11日 | 日本救急医学会認定 ICLS 講習会                |
| 21日 | 川口市保健所による立入検査(書類審査のみ)             |
| 22日 | 原水爆禁止世界大会報告会                      |
| 25日 | フードパントリー                          |
| 29日 | 前期総合防災訓練                          |

#### < 10月 >

|     |                      |
|-----|----------------------|
| 18日 | SDH カンファレンス          |
| 19日 | 川口北高校教職員向け 救急蘇生講習会開催 |
| 21日 | 法人監事監査               |

|     |               |
|-----|---------------|
| 23日 | 建設委員会総会(中止)   |
| 30日 | 第2回マネジメントレビュー |

#### < 11月 >

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 4日  | 中途入職者研修(9日)                   |
| 13日 | 日本救急医学会認定 ICLS 講習会(埼玉西協同病院にて) |
| 24日 | 職員向け「憲法カフェ」開催(SHJ委員会)         |
| 25日 | BLS 学習会                       |
| 26日 | 総合診療レクチャー「救急で見る呼吸器疾患」         |
| 27日 | フードパントリー                      |
| 28日 | 休日当番医                         |

#### < 12月 >

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| 2日  | 地域医療懇談会(オンライン開催)      |
| 4日  | 建設まつり2021             |
| 11日 | 日本救急医学会認定 ICLS 講習会    |
| 12日 | 日本内科学会認定内科救急・ICLS 講習会 |
| 18日 | 新病院建設 リニューアル工事起工式     |
| 25日 | 建設委員会総会<br>フードパントリー   |
| 31日 | 休日当番医                 |

### ■2022年

#### < 1月 >

|     |                                   |
|-----|-----------------------------------|
| 19日 | JCEP(卒後臨床研修評価機構)受審                |
| 21日 | 「非正規滞在外国人を巡る問題について」学習会(オンライン)     |
| 28日 | 「自己責任社会と財政・社会保障政策 一支援合う社会へ向けて」学習会 |
| 29日 | フードパントリー                          |

#### < 2月 >

|     |             |
|-----|-------------|
| 6日  | 双葉町甲状腺エコー健診 |
| 18日 | 第4回医療活動交流集会 |
| 25日 | 全日本民医連全国総会  |
| 26日 | フードパントリー    |

#### < 3月 >

|     |                  |
|-----|------------------|
| 6日  | 休日当番医            |
| 9日  | 川口市医師会小児科部会症例検討会 |
| 12日 | ICLS 講習会         |
| 23日 | ウクライナ学習会         |
| 24日 | 第3回マネジメントレビュー    |
| 26日 | 院内保育所 つくし保育所お別れ会 |

## 6. 施設基準

### ■基本診療の施設基準

一般病棟入院基本料  
 急性期一般入院料 1  
 ハイケアユニット入院医療管理料 I  
 回復期リハビリテーション病棟入院料 1  
 緩和ケア病棟入院料 1  
 診療録管理体制加算 1  
 医師事務作業補助体制加算 2 15対 1  
 急性期看護補助体制加算25対 1 5割以上  
 夜間急性期看護補助加算 100対 1  
 夜間看護補助体制加算  
 看護職員夜間配置加算 16対 1  
 療養環境加算  
 重傷者等療養病棟療養環境特別加算  
 栄養サポートチーム加算  
 医療安全対策加算 I  
 地域連携加算 1  
 感染防止対策加算 I  
 地域連携加算  
 抗菌薬適正使用支援加算  
 患者サポート体制充実加算  
 褥瘡ハイリスク患者ケア加算  
 ハイリスク妊娠管理加算  
 ハイリスク分娩管理加算  
 呼吸器ケアチーム加算  
 後発医薬品使用体制加算 I  
 病棟薬剤業務実施加算 I  
 データ加算 2  
 入退院支援加算 I  
 総合評価加算  
 入院時支援加算  
 せん妄ハイリスク患者ケア加算  
 地域医療体制確保加算

### ■特掲診療の施設基準

遠隔モニタリング加算（心臓ペースメーカー指導管理料）  
 糖尿病合併症管理料  
 がん性疼痛緩和指導管理料  
 がん患者指導管理料イ・ロ  
 がん患者指導管理料ハ

がん患者指導管理料ニ  
 糖尿病透析予防指導管理料  
 乳腺炎重症化予防ケア指導料  
 婦人科特定疾患治療管理料  
 院内トリアージ実施料  
 夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に規定  
 救急搬送看護体制加算 1  
 ニコチン依存症管理料  
 療養・就労両立支援指導料の注 2 に規定する相談支援加算  
 療養・就労両立支援指導料の注 3 に規定する相談支援加算  
 開放型病院共同指導料  
 地域連携診療計画退院時指導料  
 肝炎インターフェロン治療計画料  
 ハイリスク妊産婦連携指導料 1  
 ハイリスク妊産婦連携指導料 2  
 薬剤管理指導料  
 医療機器安全管理料 1  
 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料  
 在宅酸素療法指導管理料の注 2 に規定する遠隔モニタリング加算  
 遠隔モニタリング<sup>※</sup>（持続腸圧呼吸療法指導料）  
 持続血糖測定器加算（シリンジポンプと連動しない測定器）  
 遺伝学的検査  
 BRCA1/2 遺伝子検査  
 先天性代謝異常症検査  
 HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）  
 検体検査管理加算（IV）  
 時間内歩行試験およびシャトルウォーキングテスト  
 皮下連続式グルコース測定  
 コンタクトレンズ検査料 I  
 小児食物アレルギー負荷検査  
 センチネルリンパ節生検（片側）  
 画像診断管理料 I  
 画像診断管理料 II  
 遠隔画像診断  
 CT 撮影及び MRI 撮影  
 冠動脈 CT 撮影加算  
 心臓 MRI 撮影加算  
 CT 透視下気管支鏡検査加算  
 乳房 MRI 撮影加算

小児鎮静下MRI撮影加算  
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算  
 外来化学療法加算Ⅰ  
 無菌製剤処理料  
 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)  
 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)  
 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)  
 障害者(児)リハビリテーション料  
 がん患者リハビリテーション料  
 集団コミュニケーション療法料  
 精神科デイケア「小規模なもの」  
 精神科ショートケア「小規模なもの」  
 人工腎臓(慢性維持透析Ⅰ)  
 導入期加算Ⅰ  
 透析液水質確保加算及び慢性維持透析ろ過加算  
 下肢末梢動脈疾患指導管理加算  
 骨移植術(自家培養軟骨移植術に限る)  
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術  
 乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネリリンパ節加算Ⅰ)  
 穿婁閉鎖術等(内視鏡によるもの)  
 ペースメーカー移植術・交換術  
 大動脈バルーンポンピング法(IABP法)  
 バルーン閉塞下逆行性経静脈の塞栓術  
 肝管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除をと  
 もなうもの)  
 体外衝撃波胆石破碎術  
 腹腔鏡下肝切除術  
 体外衝撃波膵石破碎術  
 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術  
 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術  
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術  
 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術  
 胃婁造影術  
 輸血管管理料Ⅱ  
 輸血適正使用加算  
 貯血式自己輸血管管理体制加算  
 人工肛門、人工膀胱造設術前処置加算  
 麻酔管理料Ⅰ  
 麻酔管理料Ⅱ

## 7. 教育研修施設等

### ■基本領域

基幹施設：内科、総合診療、麻酔科

関連・連携施設：小児科、皮膚科、外科、整形外科、  
産婦人科、病理、リハビリテーション科

### ■サブスペシャリティ領域

日本糖尿病学会認定教育施設(2000.11.27)  
 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設(2000.12.1)  
 日本臨床細胞学会教育研修施設(2003.9.30)  
 日本消化器内視鏡学会指導施設(2006.12.1)  
 呼吸器外科専門医制度関連施設(2010.4.1)  
 日本がん治療認定医機構認定研修施設(2010.11.1)  
 日本透析医学会専門医制度教育関連施設(2010.11.26)  
 日本在宅医学会認定専門医制度研修施設(2011.4.1)  
 日本乳癌学会認定医専門医制度 関連施設(2013.1.1)  
 日本消化器外科学会専門医制度関連施設(2013.4.1)  
 日本胆道学会指導施設(2014.4.1)  
 日本肝臓学会専門医制度関連施設(2014.4.1)  
 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設(2015.4.1)  
 日本消化器病学会認定施設(2016.1.1)  
 日本手外科学会関連施設(2016.7.1)  
 日本呼吸器学会認定施設(2016.12.9)  
 日本循環器学会認定循環器専門医関連施設(2017.4.1)  
 日本脳卒中学会研修教育病院(2018.1.1)  
 日本膵臓学会認定指導施設(2020.1.1)  
 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設  
 (2020.1.1)  
 新家庭医療後期研修プログラム認定(2020.4.1)  
 日本大腸肛門病学会認定施設(2021.9.1)

※(認定年月日)